

## SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	本嶋将大	学校名	昭島市立つつじが丘小学校
実施学年	小学 1 年生	教 科	図工
単元名	「すきまちゃんの すきなすきま」 B 鑑賞(1)ア、共通事項(1)ア、イ		

### 《学びを深めたいポイント》

本題材のねらいは、キャラクター「すきまちゃん」と一緒に身の回りの様々な隙間を探す活動を通して、児童が造形的な面白さに気付き、自分の見方・感じ方を広げることにあります。

具体的には、日常では見過ごしがちな家具や物陰の隙間に注目させ、形や色の特徴を発見したり想像を膨らませたりする中で、「隙間ってこんなにたくさんあるんだ」「いろんな形の隙間がある」といった新鮮な気付きにつながります。

こうした鑑賞的な活動を通じて、子どもたちの発想力や感性を育み、普段の生活空間に対する視点を豊かにすることが本授業の目標です。

### 《SKYMENU 活用のポイント》

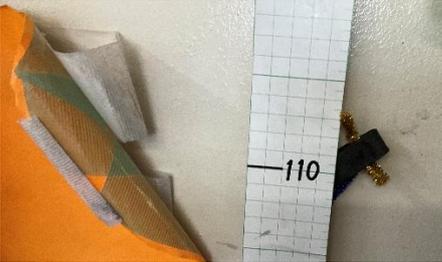
本実践では 1 人 1 台端末(タブレット)を活用したことで、児童の学び方にも良い効果が生まれました。まず、一人一人が自分のペースで活動できる点です。カメラ機能付きの端末を持たせることで、好きなだけ隙間を探して記録する時間を各自が確保できました。友達と同じ場所に一齐に集まる必要がないため、焦ることなく思い思いの場所で創造的に試行錯誤できます。実際、ある子はじっくり校内を探検して 5 枚以上撮影し、その中から「これだ!」と思う 1 枚を選んでいました。他の子がどこで何をしようと思わず関係なく集中できるため、内気な児童も周囲の目を気にせず不安なく活動に没頭できるという利点があります。

さらにタブレットの画面上で写真の構図を確認しながら撮影できるため、例えば「もう少し近寄ってみよう」「角度を変えたらどうなるかな」といった発想が次々と生まれ、カメラ操作そのものが創造的な学びの一部となりました。児童からは「タブレットだと何回でも撮り直せるから助かる!」「大きく映して見ると新しい発見があるね」といった声も聞かれ、デジタル機器ならではの試行錯誤のしやすさが表現意欲を高めていたようです。

一方、教師側にとっても ICT 活用には効果がありました。クラウドを通じて子どもたちの写真データを即座に収集・一覧化できるため、発表用のスライド資料を短時間で用意できました。

従来であれば児童が撮った写真をプリントアウトしたり黒板に貼ったりする手間がありましたが、今回は Skymenu 発表ノートへの提出→大型モニターで提示という流れでスムーズに全員分の作品共有が実現しました。また、提出された発表ノートは後日振り返りにも活用でき、各自の作品と思いをクラス全員で蓄積・参照できる形になっています。ICT 機器を適切に取り入れることで、児童が安心して創造活動に取り組める環境作りと、教師の指導支援の効率化の両面で効果が得られたといえます。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	<p>1 めあてを確かめる。 ○本時の活動を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて:すきまちゃんのすきなすきまを見つけてしゃしんをとろう。</div> <p>2 活動のきまりを確かめる。 ○タブレットでの写真の撮り方のこつを確かめる。 ○写真を撮りに行ってよい場所と、やってはいけないことを確かめる。</p>	<p>■教師がすきまちゃんを置いて写真を撮ることで、本時のイメージをもたせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">すきまちゃんは、すきまの中で、どんなことをしているかな？ どんなおはなしをしてくれるかな？</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <span>すきまちゃんのなまえ</span> <span>すきまはさまりたろう</span> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;"> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; display: inline-block;">たすけて~!</div>  </div>	<p>○撮る角度を変えたり、物を動かしたりして、写真を撮ってもよいことを伝える。</p> <p>■タブレットは両手で持ち、写真を撮るように指導する。</p>
展 開	<p>3 写真を撮る。</p> <p><input type="checkbox"/> 校内（教室や廊下、流しなど）を歩き回り、すきまちゃんを置いて写真を撮る。</p> <p>4 写真を発表ノートに貼り、隙間ちゃんのセリフを付箋に書かせ、提出箱に提出する。</p> <p><input type="checkbox"/> 教室に戻り、発表ノートに写真を載せて送る。</p>	  	<p>○困っている児童には、「もし自分がすきまちゃんだったら、どんな風に見える？どんなことをしてみたい？」と、声を掛ける。</p> <p>☆すきまちゃんと一緒にいろいろな隙間を見付ける活動を通して、形や色などを基に、身の回りの隙間や場所の造形的な特徴について気付いている。 【観察、撮った写真】</p> <p>☆いろいろな形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、身の回りの隙間や場所の造形的な面白さや楽しさについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 【思考・判断・表現】 【観察、撮った写真】</p>



ま と め	5 活動の振り返り ○見付けた隙間や場所を何枚か紹介する。	○児童にどんな場所を見付けたかを聞き、数名の写真を紹介することで、次回の伝え合いの意欲付けを行う。	
-------------	----------------------------------	---	--

## 《実践を振り返って》

本授業を通して、子どもたちからは多くの意欲的なつぶやきや笑顔が引き出され、作品発表でも活発な声が上がりました。隙間探しの最中には「先生、見て!こんなところに入れてみたよ!」と興奮気味に呼ぶ姿や、「みつけた!」と友達同士で喜び合う場面があり、教室中に探究心あふれる雰囲気広がりました。発表の時間でも、一人ひとりが堂々と自分の写真を紹介し、聞き手の児童も頷いたり笑ったりしながら対話的な鑑賞を楽しむことができました。

授業後、児童同士で「他にもこんな隙間がありそうだね」「今度お家でも探してみようかな」などと話し合う姿も見られ、学びが日常生活や他教科(例えば国語でのお話作り)にも広がる可能性を感じました。

指導の工夫として効果的だったのは、事前の ICT 操作指導や安全面の注意によって、1年生でもスムーズに機器を扱えた点です。高学年生によるサポートや事前練習のおかげで、撮影や送信に戸惑う児童はほとんど見られず、自信をもって活動に参加できていました。

今後の課題としては、発表時間の配分や全員の発言機会の均等にさらに配慮することが挙げられます。今回は何人かが1枚ずつ紹介する形をとりましたが、「もっと写真を見せ合いたい!」「〇〇さんに質問したかった」などの声もあったため、時間に余裕をもたせる工夫やグループ鑑賞の導入も検討の余地があります。

また、家庭や地域に学びを開く試みとして、作品写真を学校ウェブサイトで紹介したり、保護者向けにオンライン展示を行ったりすることも今後の展望です。幸い教材自体が児童にとって大変魅力的であったため、子どもたちの意欲を維持しつつ発展させていけるよう、引き続き指導法を工夫していきたいと考えています。